

吾妻小学校×浅野友理子



あさの ゆりこ
浅野 友理子 さん Profile

1990年宮城県生まれ。東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科修士課程修了。食文化や植物の利用を切り口にさまざまな土地を訪ね歩き、出会った人々とのエピソードを交えながら記録するように描く。昨年の「ウォールアートふくしま in 猪苗代」では、翁島小学校を舞台に制作活動を行う。

長瀬川の赤い水の色、酸性の川のイメージで制作を始めました。その後、吾妻地区の人たちに流れる血液のような力強い、脈を打つようなイメージにだんだん変わっていった。このような作品に仕上がりました。

夏に吾妻小学校の子どもたちと一緒に長瀬川の源流を見に行きました。そこで子どもたちが地元の人に笹舟の作り方を教わり、川に流していました。その笹舟を作っている子どもたちの手を作品の中に描いています。教室の前方には、地元の人たちの暮らしの中に身近にある春の山菜やネマガリタケなどを描き、教室の横にアケビやサルナシ、キノコ類などの秋の植物を描きました。取材中に桑の木のおぼろを見つて、作品のシンボルとして描いています。そして、桑畑と猪苗代湖に続く川を描きました。



Pick Up

今月のイベント

ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代 2021

ダンスパフォーマンスを披露する吾妻中学校の生徒ら

町内の学校の壁などを芸術作品で彩る「ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代 2021」は11月6、7の両日、吾妻小学校や吾妻中学校などを舞台に開かれました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予約者限定の鑑賞会とオンラインでの公開が行われました。

吾妻小学校では、画家の浅野友理子さんが吾妻地区周辺の植物などを中心とした絵画作品を図工室に描き、吾妻中学校では、壁画や造形などの表現活動を行っている画家の大小島真木さんがからまつ教室をキャンバスにして「呼吸 Breathing」と題した作品を描きました。参加した画家の2人は10月から町内に滞在し、本町の自然や文化などを取材しながら、それぞれの思いを込めた作品を作り上げました。また、吾妻中学校では生徒たちがパフォーマーとして芸術祭に参加。演出家で音楽家の信太美奈さんがナビゲーターを務め、大小島さんが描いた壁画の前でダンスや朗読などのパフォーマンスを披露しました。

このほか、はじまりの美術館ではアートワークショップ「風と森と。展」が開かれるなど、各所で多彩な催しが繰り広げられました。

まちの応援マガジン いなわしろ

広報 猪苗代

Dec.2021
12
No.734

今月の表紙



【撮影日】 11月12日
【撮影場所】 猪苗代湖・長浜

新会社の下、10月29日から約1年半ぶりに運航を再開した猪苗代湖の遊覧船「はくちょう丸」です。今月には「かめ丸」も運航再開を予定しています。

Contents — 【目次】

- 02 Pick Up ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代 2021
- 06 第33回ふくしま駅伝
- 08 町自治功労者表彰式
- 09 ホットニュース／地域おこし協力隊通信
- 10 まちのわだい
- 12 いなわしろタウンページ
- 18 暮らしの情報広場
- 20 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー

吾妻中学校×大小島真木



おお こ じ ま ま き
大小島 真木 さん Profile

1987年東京都生まれ。女子美術大学大学院修士課程修了。「生きとし生けるものたちの世界」をテーマに絵画や壁画の制作を行い、複雑に絡み合う自然界の姿や生命が無限に連鎖するさまを壁や床、天井を使って縦横無尽に描く。主な受賞歴に、ワンダーウォール賞、福沢一郎賞など多数。

この作品のタイトルは「呼吸」です。今年の夏、吾妻小学校の郷土学習で小野川湖に行く授業があり、私も同行しました。これまでも猪苗代には何度か訪れたことがありましたが、改めて小野川湖から1888年に噴火が起こった磐梯山を見つめました。その時に、いかに磐梯山が大きく、神々しく、うねりとともにこの地ができ、そしてここにみんなが生きてきたということを考えさせられました。

私は、吾妻中学校の教室から見える風景とこの地に根付く伝承や物語、神話をこの教室内に描きこもうと決めました。磐梯山は見る場所が変わると見え方も変わります。そこで表磐梯や裏磐梯、そしてかつての噴火前にあったであろう5合目より上の部分を描いています。真ん中には火口を上から見た様子を描きました。

手や足は、民話で伝わる手長足長です。手長足長が動き出して、教室の中で踊っているようなイメージです。

ここで制作をしていると山々が近くにあつて木々の枝が風に吹かれて動き、それぞれが生きていると感じます。そしてその風景の中に私がいることを感じながら描きました。この学校に来る途中には、長瀬川が見えしました。長瀬川の水は赤いです。私はこんなにも赤い川を毎日見て、そのたびにどきどきとしていました。体内に流れる血脈のようには感じたからです。教室の中には、沼尻鉱山から湧いてくるお湯、秘湯の大地を描きました。そして水の流れの行き先は猪苗代湖です。

私は、人々が自然に畏敬の念を持ち、自然に抱かれて生きていくということをこの教室に描きたいと思いました。



猪苗代アートプロジェクト実行委員会
実行委員長 楠 恭信 さん

子どもたちの近くにアート作品を

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインのみでの公開となりました。今年はせめてアーティストによる制作はできるだろうと準備を進め、最終的に人数限定とはなりましたが、実際に皆さんに会場へ足を運んでもらい、作品を見てもらうことができて良かったと思います。

今回は、吾妻小と吾妻中という隣り合わせの学校が舞台となりました。2人の女性アーティストに制作を依頼し、同じ地区で作品を描いていただいたんですが、同じ場所を廻って同じ話を聞き、吾妻地区のことをいろいろと調べて作品にしてもらいました。表現方法は全く違っていますが、吾妻地区の誇りをそれぞれの形にしていきたいまし

た。地元の子どもたちが一番近くで作品に触れ、「自分たちのふるさとがこういう風に描かれたんだ」ということを見ることでできたと思います。

今年度をもつて各中学校が統合になることもあり、それぞれの中学校の生徒が壁画と一緒に参加するプロジェクトを行いました。東中では壁画の前で合唱を行いました。猪苗代中では2年前に参加した画家の浅井裕介さんに来ていただき、粘土で200人のワークショップを行い、新たに一つの作品を作り上げました。それぞれの学校だからこそできることに挑戦しました。児童・生徒たちに芸術という教科書ではなかなか学べないことに触れてもらうことができたのではないかと思います。

「吾妻の美は 自然の美

磐梯山の横顔たくましく

酸川の流れみずみずしく

私たちの大地 吾妻の地

吾妻の美は 季節の美

春は桜が咲き乱れ

校庭が頬を淡く染める

夏は滝のしぶきが涼しくて

達沢の緑が生い茂る

秋は山々が色づいて

田んぼが黄金にきらめくの

冬は雪でおめかしを

白鳥が澄んだ空をゆく

私たちのふるさと

吾妻の自然

永遠に」

生徒のパフォーマンスの中で披露された朗読です。
吾妻中3年生の女子3人が
詩を作りました。

